

達成目標と学習方略の関係性 —メタ分析を用いた検討—

○池田賢司 (東海学院大学)
柿沼亨祐 (同志社大学・日本学術振興会)

江 聚名 (同志社大学)
田中あゆみ (同志社大学)

キーワード: 達成目標, 深い処理, 浅い処理

問題と目的

学習者は何らかの目標を持って学習を行う。達成目標理論では, 達成目標の質的違いが学習過程に影響することが想定されている。本研究では, 達成目標の中でも特に接近目標を取り上げ, 達成目標と学習方略 (i. e., 深い処理と浅い処理) の関係性について検討する。

これまでの研究において, 習得接近目標は深い処理と, 遂行接近目標は浅い処理とより関連していることが想定されており (the depth of learning hypothesis; Senko et al., 2011), この想定に一致した結果が得られている (e. g., Elliot, 1999)。しかしながら, この想定とは矛盾した結果も得られている。特に, Senko et al. (2011) では, 24 の研究の達成目標と浅い処理との間の相関係数の平均を算出しており, 習得接近目標も遂行接近目標もいずれも同程度の値であった ($r_s = .20-.26$)。この結果は, the depth of learning hypothesis における枠組みを修正する必要性があることを示唆する。

ただし, Senko et al. (2011) では浅い処理の観点からの相関係数の平均しか算出しておらず, the depth of learning hypothesis を十分に検証できていない。そこで本研究では, 達成目標と学習方略 (i. e., 深い処理, 浅い処理) の関係性についてメタ分析を用いより詳細に検討し, the depth of learning hypothesis を再検証することを目的とする。

方 法

文献の検索 達成目標と学習方略等の関係性についてメタ分析を行った Senko & Dawson (2017) で使用された文献を対象とした。ただし, Senko & Dawson (2017) では 2014 年 8 月 1 日までの文献しか含まれていなかったため, 新たに 2014 年 8 月から 2018 年 12 月までの範囲で達成目標と学習方略について検討した文献を, PsycARTICLES, PsycINFO, ERIC を使用し検索した。

文献の選定 達成目標と学習方略 (i. e., 深い処理と浅い処理) の間の相関係数を算出している文献を分析対象とした。また, 回避目標が含まれているものや深い処理と浅い処理が混在した学習方略を対象としていた文献は分析から除外した。

コーディング Hulleman et al. (2010) に基づ

き, 著者 2 名が達成目標を習得接近目標と遂行接近目標に分類した。一致率は習得接近目標 ($AC_I = .95$), 遂行接近目標 ($AC_I = .78$) いずれも高かった。また, Pintrich (1999) に基づき, 著者 2 名が学習方略を深い処理 (i. e., 精緻化, 体制化) と浅い処理 (i. e., リハーサル), いずれの方略にも該当しないに分類した。評定者間の一致率は高かった ($AC_I = .90$)。なお, いずれの項目も不一致な部分は協議を行って解消した。

結果と考察

異質性について検討したところ, いずれも異質性の指標が統計的に有意であったため, 変量効果モデルを適用してメタ分析を行った ($Q_s > 132.56$, $ps < .001$, $I^2_s > 83\%$)。

深い処理については, 習得接近目標と遂行接近目標いずれの目標との間にも正の相関が認められた (Table 1)。ただし, 習得接近目標と深い処理との間の相関係数の方が, 遂行接近目標と深い処理との間の相関係数に比べより高い値であり, 95% 信頼区間もこれらの相関係数の間で重なり合っていないかった。そのため, いずれの目標も深い処理と関連しているものの, 習得接近目標の方が深い処理とより強い関連があるものといえる。この点については, the depth of learning hypothesis と矛盾するものではない。

一方で, 浅い処理についても習得接近目標と遂行接近目標いずれの目標との間にも正の相関が認められたものの, 相関係数も同程度の値であった (Table 2)。これは Senko et al. (2011) と一致する結果である。この結果を踏まえると, the depth of learning hypothesis における達成目標と浅い処理の関係性に関する枠組みについては修正を行う必要があると考えられる。

Table 1 達成目標と深い処理との間の相関係数と95%信頼区間

	<i>r</i>	95%CI	<i>K</i>	<i>N</i>
Mastery-approach goals	.39	[.34, .45]	25	7002
Performance-approach goals	.16	[.08, .24]	16	5288

Note. *K* = number of studies; *N* = number of participants.

Table 2 達成目標と浅い処理との間の相関係数と95%信頼区間

	<i>r</i>	95%CI	<i>K</i>	<i>N</i>
Mastery-approach goals	.24	[.18, .30]	32	11968
Performance-approach goals	.20	[.15, .25]	24	9390

Note. *K* = number of studies; *N* = number of participants.